

「水都とくしま」における、 新町川のとりくみについて



徳島県 河川整備課
原 政輝

○新町川の概要



○新町川の現在状況 ～賑わいあふれる水辺空間～



川辺空間を利用した
イベントの開催

「青石」を活用した
親水護岸

NPO法人
「新町川を守る会」による
クルーズ船

○新町川の概要



○新町川の歴史（その1）

【昭和初期】

新町川沿いでは藍蔵が軒を連ね、水質も良く、川で泳ぐ人たちに賑わう風景が見られた。



S30年代状況

【昭和30年代】

高度経済成長期に入り、工業廃水や生活排水などにより水質が悪化してしまった。



S36：第二室戸台風状況

【昭和36年】

第二室戸台風の高潮波浪により甚大な被害を受け護岸整備に着手。

【昭和41年】

護岸整備が完了。



ヘドロやゴミ状況

【昭和46年】

川底にたまったヘドロの浚渫を県が開始。

【昭和50年代】

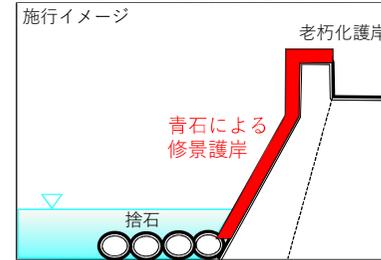
国により浄化ポンプの整備が完了。

【昭和60年代】

川辺環境の向上のため、徳島県が護岸整備、徳島市が公園等の整備を開始。昭和62年にはふるさとの川モデル事業に指定。

○新町川での取組み（その1）

青石を用いた護岸・遊歩道整備



青石による護岸修景



人で賑わうボードウォーク

○新町川の歴史（その2）

【平成2年】

地元住民らにより「新町川を守る会」が発足し、河川清掃やイベントの取り組みを開始

【平成4年】

徳島市が、「ひょうたん島水と緑のネットワーク構想」を策定し、ひょうたん島を中心としたまちづくりを開始

【平成11年】

徳島県が、ひかりを取り入れた遊歩道の整備（ひかりプロムナード）を開始

【平成15年】

「美しいまちなみ」優秀賞受賞

【平成21年】

「内町・新町地区かわまちづくり」計画を登録

【平成24年】

「都市・地域再生等利用区域」の指定

【平成25年】

かわ普請で「手づくり故郷賞」大賞受賞

【平成26・31年】

かわまちづくり変更

県・市が協力し改修を開始

ひょうたん島川のネットワーク構想がスタート！

現在魚が住める川になっている

○新町川での取組み（その2）

LEDを用いた景観整備

徳島市LED景観整備（富田橋）

デザイン案募集

募集期間
令和元年6月14日から
令和元年9月4日まで

主催
徳島市都市整備部
まちづくり推進課



○新町川でのイベント（その2）



サンタが町にやってくる



寒中水泳大会



とくしまマルシェ



水際コンサート

○まとめ

●これまで
新町川周辺では、かわまちづくり計画や、ひょうたん島水と緑のネットワーク構想に基づき徳島県、徳島市により整備や管理を行い、NPO法人新町川を守る会をはじめとする民間団体により、清掃活動やリバーイベントが行われてきた。これにより、新町川周辺は、ウォーキングコースや子供たちの遊び場として利用されたり、イベントの開催等で多くの人で賑わう空間となってきた。

●これから
更なる賑わいを創出するため、クラウドファンディングなどの新たな取り組みを行うほか、阿波踊りや、マチアソビといった大規模イベントをさらに盛り上げるため、県市及び地元との更なる連携の強化が大切と考える。

●さいごに
「かわまちづくり計画」や「ひょうたん島水と緑のネットワーク構想」に基づき、ひょうたん島を中心とする水辺を生かしたまちづくりを実現し、地元住民はもちろんのこと、県外、海外から来る人々に親しまれ、眺めにも配慮した、魅力ある水辺空間の形成を目指していく。

○新町川での新しい取り組み

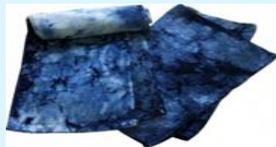
- ふるさと納税型クラウドファンディングの導入
 - ・「かわ普請」から「クラウドファンディング」に進化！
 - ・全国の「新町川ファン」によびかけ！
 - ・併せて、青石護岸の魅力を全国にPR！



次世代へ継承！
「新町川の護岸」
魅力化プロジェクト
阿波の青石で癒いの水辺空間へ

●寄付者へのお礼品 ※県外の寄付者対象

- ・徳島県産スダチ
- ・和三盆コロン
- ・藍染スポーツタオル
- ・鳴門金時芋焼酎（里娘）
- ・すだち酎
- ・鳴門生わかめ
- ・阿波尾鶏
- ・阿波牛（黒毛和牛）



※ふるさとチョイスHPより抜粋